I 会員　2022.9.25 録

師匠の松村賢治さんが亡くなって、2022 年 9 月 25 日でちょうど 5 年が経ちました。今から 20 年前、大学院生の頃、JR 可部線の存続・再生の活動の中で松村さんと出会い、そして、人生が狂いました(いろんな意味で)。
研究者になる夢をあきらめ、社会人になったものの、第一歩を踏み外し、どんどん墜ちていった私にとって、どれだけ精神的な支えになったことか・・
亡くなる 2 年前、仕事がうまくいかず悩んでいたところ、松村さんから「炭焼きをするからおいで」と、それは直接的には仕事と関係ないのですが、気分的に救われました。
また、大事な備品を外出先で紛失してしまい、ものすごく焦っていた時、松村さんから「すぐに見つかるよ」と訳の分からないことを言われましたが、不思議とすぐに警察から連絡があり、事なきを得ました。
松村さんがこの世を去ってから 5 年、私が変わったことといえば、『仕事面できちんと自立した』ことでしょうか。今まで仕事をしていても、『穀つぶし』『戦力外』の意識が根底にあり、ずっと半人前以下の状態で自信などなかったですが、やっとこの年で自分で考え、自分できちんとできる(ほんまは入社 2－3 年でこうならなあかんのに)と意識を持てるようになりました。
自信を持てると、いろいろと前向きに進むようになり、その一つが行政書士の資格が取ったことです。
松村さんを偲び、昨日、南太平洋協会の松村さんゆかりの方々と ZOOM での飲み会があり、少しだけ参加しました。
30 代で建築会社を辞め、ヨットで太平洋を横断し、そこで出会った南太平洋の方との交流、旧暦、炭焼き、スローライフなどなど一言では語り尽くせない、個性の強い人でした。そういうこともあってか、賛否はあろうと思います。
そんな松村さんの生き様をきちんと見直そうと、著作の『見直しの旅』をネットで購入、ぼちぼち読んでみます。
最後に松村賢治さんの戒名「南風院築帆賢愚究竟居士」について、お葬式のときにいただいたお坊さんのお話のテープ起こしを以下、記します(ものすごく長いです)。
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
松村さんの戒名について(2017 年 10 月 4 日)
「南風院築帆賢愚究竟居士」と言うふうに大変長い戒名をつけをしました。11 字戒名と言って大変立派なお戒名と思います。浄土宗ですと本当は「南風院○誉」を入れるんですけれども浄土宗ではないとと言うことで一般的な仏教宗派では通じる戒名にしたと思います。
もう読んでる皆さんはわかっていると思うんですけれども「南風院」の「南」は南太平洋協会をとっています。家に遊びに来ていただいた時になぜ松村さんが南太平洋協会をやっているのか、話を聞いたことがありますけれども、ご自身の広島での被曝の経験があり、やはり米国に対してのいろいろな思いがあり、その中で「南太平洋の人たちが日本と同じように被曝をされた、それも全く馬鹿にされたような形で置き去りにされている」と、それが「国レベルじゃなく民間レベルで手をとっていくべきなんだ」と熱い

気持ちを語っていただいて、ただのヨットに乗って遊んでる人じゃないんだなこの人はと非常に強く感じて、骨幹にはすごい気骨があり、反骨精神があると言うことをそこで知ったわけで、ますます尊敬をしたんです。
南風が吹く時、まだまだ南太平洋協会にこれから（松村さんが）活動していくだろうし、そこにご縁ある方々がいらっしゃる。南風が吹いている時、「あ、松村さんが来てくれたんだな」と感じられるように、松村さんはみんなの心に風を起こした人です。
「築帆」
と言うのは建築の築（きずく）と言う意味があります。松村さんはいっぱいお仕事をされてきました。建築だけでなくその施主の方とお付き合いするわけです、松村さん不思議で長いお付き合いになるんです。いいことも悪いこともたくさん聞いてありますが、そうやって人間関係を作っていっていろんなものを築いてきた。いいこともあれば悪いこともある、それが人間である、という風にそれを作り、それは南太平洋協会も同じだと思います。
帆は— 帆を張っていく、松村さんはヨットで世界一周をしている。
帆を張っても風が吹かなきゃ進まないわけです。面白いんですけれど、松村さんは私どもに帆を張らせておいて、吹いてくれると思っていたら吹かないんですね、帆を張らせるんだけれども自分で吹けってタイプというのがわかってきまして、。
自分のことは自分でやれ、と言う帆の張り方をする。本当に素晴らしいことです。
人の世話をするのは簡単です、でも、人が自分自身のことをやり始める事はものすごく大変なことなわけです。そのことをやった、そういう人との付き合いをしてきた。もちろん仕事の建築の築もあります。
「賢愚」
愚というのは、よく「愚直である」と言うのもあります。松村さん、良いことも悪いことも持ってる方でした。
松村さんは広島で安芸門徒、ご実家が門徒宗（浄土真宗）でございます。
念仏と同じなんですけれども、親鸞上人が自身を愚禿（ぐとく）親鸞と申し、「内なる愚を表さないで賢者 — 利口ぶる、それが人間である」。本来はどんなに一生懸命やっても人間はしょうがないんだ、それを隠さずに生きることが１つの悟りの形であると親鸞上人はおっしゃっている。
ご存知の良寛上人は大愚と言われている。大きい愚ですね、そう言われるようにどうしようもない人だったらしいです。でも、立派な僧侶として今も名が残っている。
　松村さんは大変賢いし、頭もいいし、立派なことをたくさんやられました。その反面、ご自身の好きなことに関して本当にまっすぐに向かっていく。その姿は普通に生きてる人にとっては「ばかじゃないのか、あほじゃないの」、端から見たらそんなあほな人なかなかいないわけです。仕事やりながらでもお金をそこにつぎ込んでしまう、これ作りたいなと思ったら一心不乱に作ってしまう。でも、それで飽きたらず、それを学問的に検証したり、形として残していく、これも「築く」— 建築から来ているんだろうなと思うんですけれども、そういう形をちゃんとされたことである。でも、愚直でもあり、端から見たら本当にろくでなしでもある、そのろくでなしを隠さずにいた。だからこそ南太平洋協会の人たちも他の仕事の仲間たちも飲み仲間もみんな松村さんは裏（うしろ）がないから、一緒にいると楽しいなと。僕も松村さんのことを裏も表も知っているつもりでい

るんですが、苦しい時も変わらなかったです。お金が無い時もある時もあまり変わらなかったです。歯を食いしばって何かをやっている姿を見せなかった気がします。でも、さっき言った気骨のある、クジラのことで新聞に載り、アメリカが「捕鯨をやめろ」と言った時、その時にわざわざクジラ食ってやるわけです。カラスの害があると騒がれた時もカラスを食おうとやるわけです。端から見たら馬鹿じゃないのと思われることも反骨精神「俺がこう思うんだ」、松村賢治と言う人間はこの世の中で他に代わりがいないんです。誰から引っ張ってきても松村賢治にならないわけです。

仏様は私ども一人ひとりに「自分でいなさい」と教えるわけです。この前、レディガガって人が「あなた、自分でいますか?」とそういう同じことを言ってすごいなと思ったんですけれど、仏様は「オリジナルであれ」と言うわけです。誰かの真似していき必要なんかないんだよ、人は自由なんだよ、人からバカって言われようが、アホって言われようがやりたいことやればいいんだ。迷惑かかる人いっぱいいます、いるけれども、オリジナルであること、それができる賢い愚、「賢愚」。愚なんて言う言葉をつけるなんて名僧の戒名なんです。

私も「賢愚」という言葉をぱっと浮かんで、すごくいいなと思って寺の者に聞いたら、愚って「入っていいのか？」というものがあったんで、松村さんに聞いたんですけど、松村さん喜んでる感じがしたので戒名とつけさせていただきました。

「究竟」とは

究（きわ）める、人生を極める。松村さんはさっき言ったようにいろんなものを極めました。もう、いい加減にはやらないです。これをやろうと思ったら極める、さっきそれを言ったように愚直であり、人からも良いっていう人と、それが余計なことじゃないかと言う人もいました。でも、自分の松村賢治を止めなかったからこそ、それが全て進んでいった。

私なんかほんと浅い付き合いですけれども、その中で松村さんの人と心とやってきたことを表す、一生懸命それなりに戒名をつけさせていただいて、戒名とは坊主がつけるものとよく言われてるんですが、お戒名とは生まれてくる仏だったときの名前なんです。

僕らはつけるのではなくて、探しにいくだけなんです。探しに行っていろんなことを並べて、捨てていくんです。松村さんの場合は探していくと割合探しやすくて、褒める言葉などいくらでも出てくるんですけれど、それに坊主が惑わされずにその人の真実を探し出して皆様にご紹介する立場なだけなわけです。

松村さんは、私に「ニューギニアに行って戦没者の供養をしろよ」と初めから言われていたんですが、私がなかなか腰を上げずにいたので、ご本人がお坊さんの修行もされ、ご本人から「今度は自分が行ってお経あげるよ」とありがたいお話があって、実践されたとお話をお聞きしました。

松村さん、やりたいことに関しては全部やられたんだろうな、もうこれからは畳の上で死ぬ人じゃないですし、逆に皆さんに「松村賢治という人はこういう生き様でこういう死に様だったんだよ」と。ここにいる人に向けて「好きなことをやって、命なんてくれてやれ」と言う位のことを示して亡くなられたんだと思います。

亡くなるときのギフトは大変なことです。それを病院にもいかず。後でわかったんですけれども、ご病気だったと。「あんなこと関係ない、命が燃えているんだから燃やすん

だ！」といってニューギニアの奥地に行ってしまったんだろう。側は迷惑です、迷惑ですけれども、そんなことを考えないわけです、オリジナルの松村賢治というのは。松村賢治は生きているんだ、生きてるのはこうやって生きてるんだと、ことのために生きている人ですから。こうやって生きるといろんな事が起きます、でも、起こしてもこれだけの方が弔問に来て御焼香してくれて「いい人だったな」と言ってくれるわけです。そういう愛される、遠慮なく生きたからこそ愛されるわけです。

松村さんが残してくれたことって言うのは、もしかしたらそういうことではないかな、「オリジナリティーを持って生きろよ、遠慮するなよ、あなたしかいないんだよこの世に、あなたがいれば他にいらないんだから」位のことを私たちの心に強く残してくれた人生だったと思います。

身内の３人、息子がおりますが、息子たちにとってはとんでもない親だと思います。とんでもない親だからこの３人はとんでもない親にはならないわけです。
でも、ただの男として見たとき、これは面白い男なんです。いろんな側面から人を見ていって、それを自分の心の糧にしていく。

これから現実的なことがたくさん起きてくると思いますけれど、松村さんはそんなこと関係なくひょうひょうと南風に乗ってこれからは船に乗ることなくマーシャルやニューギニアに行ったり、皆さんのところに帰ってこれます。そういうところにいっぺんに現れるようになります。

心に南風を感じた時、松村さんが来たなぁと思って自由に一緒に遊んであげてほしいと思います。私もそうしたいと思っております。
松村さんに代わって皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございます。